

平成二十九年六月の作品（六月九日（金）（第五二回）

（文京シビックセンター5階D会議室）

旅終へてまづは蜘蛛の囿ゐ払ひけり（一江）

詣で径二人静のほの灯す（清助）

手古舞の芸妓額げしぎに光る汗（隆治）

星影に白く浮びて山法師（奉男）

夏帽子めがけ空より烏二羽（孝昭）

亡き兄の携帯が鳴る梅雨の朝（前歩）

三ノ輪駅薔薇のなかより都電出づ（貴美）

亡きひとに供へ新茶の香り濃し（平六）

夏舞台翁の足袋の白さかな（正雄）

芍薬は苦い記憶と母の言ひ（芙沙）